

## 野鳥観察施設において観察された釣針・釣糸などが 水鳥におよぼした傷害の例

鈴木弘之<sup>1</sup>・松井淳<sup>2</sup>・芝原達也<sup>3</sup>

1. 日本野鳥の会サンクチュアリセンター, 千葉県習志野市秋津 5-1-1 谷津干潟自然観察センター
2. 谷津干潟自然観察センター, 千葉県習志野市秋津 5-1-1
3. 日本野鳥の会サンクチュアリセンター, 東京都大田区東海 3-1 東京港野鳥公園

捨てられた,あるいは障害物にひっかかるなどして放置された釣糸や釣針, ルアーなどにより, 鳥類は被害を受ける. 特に, 水辺環境を生息域とする水鳥が影響を受けている(平塚市博物館 1981, 日本鳥類保護連盟 1997). 近年, レジャーとして釣りを楽しむ人口が増加しており, これにともない, 鳥類に対する直接的な被害が増加することが懸念される. 本稿では習志野市谷津干潟自然観察センター, 都立大田区東京港野鳥公園で観察されたこれらの被害について報告する.

両施設は東京湾の一角にあり, 前者は湾北岸(奥部), 後者は湾西岸に位置し, シギ・チドリ類やカモメ類, サギ類などの水鳥が多く生息する. 記録は谷津干潟自然観察センターが1996年8月から1998年8月まで, 東京港野鳥公園が1995年10月から1997年4月までのものである.

### 結果および考察

被害が観察された鳥種はいずれも水辺に生息する鳥類であり, カモメ類が8件, サギ類が3件, シギ, チドリ類が5件, ウ類が3件であった(Table 1). このうち, カモメ類は魚を食物とすることが知られており, このためかルアーを誤食したために被害を受けた例(Fig. 1)が4件であった. またカワウも3件の被害があった. しかし, 同じく魚を食物とするサギ類についてはルアーの被害はみられなかった. また, 釣糸, 釣針の被害では, これが絡まって, 体の一部が欠損していたり, 機能していない個体が観察された(Fig. 2).

観察記録は, 観察者が観察指導等の日常の業務を遂行しているときに発見した記録であり, 1日のうちでも限られた短い時間の観察によるものである. したがって, 実際の各観察施設地域内における被害数についてはさらに多いと考えられる.

また, この記録は東京湾部における, 2か所での極めて狭い範囲の観察記録であり, 湾全体ではどれだけの被害があるのか不明である. 釣針, 釣糸は絡まると鳥の体に重大な影響を及ぼす. また, 釣針を飲み込んで死亡するケースなども数多く存在すると思われるが, 観察によっては情報収集が不可能である. 釣りというレジャーを楽しむ人間と鳥類の今後の共存を図るためにも, 釣針, 釣糸を捨てないというマナーを徹底するのみならず, 釣針, 釣糸が

---

1998年12月9日受理

キーワード: 傷害, 釣針, 釣糸, 水鳥, ルアー



Fig. 1. Japanese Gull *Larus crassirostris* injured by lure on its bill and one wing.



Fig. 2. Grey Plover *Pluvialis squatarola* injured by fishing line on the left leg.

失われやすい場所での釣りの自粛や、ごみ拾いなど、広くこれらの被害をなくす活動が必要である。

#### 引用文献

- 平塚市博物館. 1981. ガイドブック 1 相模川河口の自然. 平塚市博物館, 平塚市  
日本鳥類保護連盟. 1997. まもろう鳥みどり自然. 日本鳥類保護連盟, 東京.

Table 1. Birds injured by fishing line, fish hook and lure observed at Tokyo Bay.

Species		Month/Year	Observation
Yatsuhigata Nature Observation Center			
カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	Aug. 1998	ルアーがくちばしに絡まる
		Sep. 1998	ルアーがくちばしと翼に絡まる
ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	Mar. 1997	釣糸が足に絡まる
		Dec. 1997	釣糸が足とくちばしに絡まる
メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	Sep. 1998	釣糸により右足指欠損
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	Aug. 1996	くちばしに釣針が絡まり、左足動かず肉が露出
キアシシギ	<i>Tringa brevipes</i>	May 1997	釣糸が足とくちばしに絡まる
		Sep. 1998	釣糸と釣針が足に絡まる
ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	Aug. 1996	ルアーがくちばしに絡まる
セグロカモメ	<i>L. argentatus</i>	Jan. 1998	釣糸が足とくちばしに絡まる
ウミネコ	<i>L. crassirostris</i>	Nov. 1996	釣針がくちばしに絡まる
		Aug. 1998	ルアーがくちばしと翼に絡まる
		Sep. 1998	釣糸が右足に絡まり、動かず
Tokyo Port Wild Bird Park			
カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	Oct. 1996	ルアーがくちばしと翼に絡まる
コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	Oct. 1995	釣糸が足に絡まる
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	Sep. 1996	釣糸が右足に絡まり欠損
ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	Feb. 1997	釣糸を飲みこむ
セグロカモメ	<i>L. argentatus</i>	Mar. 1997	ルアーがくちばしに絡まる
カモメ	<i>L. canus</i>	Mar. 1997	ルアーが右足に絡まる

### Birds observed injured by fishing line, fish hooks and lures in Tokyo Bay

Hiroyuki Suzuki<sup>1</sup>, Atsushi Matsui<sup>2</sup> & Tatsuya Shibahara<sup>3</sup>

1. Sanctuary Centre, Wild Bird Society of Japan. Akitsu 5-1-1, Narashino, Chiba, Japan
2. Narashino city. Akitsu 5-1-1, Narashino, Chiba, Japan
3. Sanctuary Centre, Wild Bird Society of Japan. Tokai 3-1, Oota-ku, Tokyo, Japan

Nineteen instances of birds injured by fishing line, fish hooks and/or lures were observed at two sites in Tokyo Bay. Thirteen records were from the Yatsuhigata Nature Observation Center from August 1996 to August 1997 and six records were from the Tokyo Port Wild Bird Park from October 1995 to April 1997: eight gulls, five shorebirds, three herons and bitterns, and three cormorants were involved. Four of the gulls and all the three of the cormorants were damaged by lures. One gull had its right leg hewed from its body and the other gulls had other parts of the body damaged by the line.

*Key words: fish hook, fishing line, lure, waterbirds injured wildlife*